

甲南病院瓦版

膠原病・リウマチ性疾患について

内科 佐川 友哉 医師

毎週水曜日午前・午後、木曜日午前の内科外来を担当しております京都府立医科大学大学院免疫内科の佐川です。いつもスタッフの皆様にはお世話になっております。

本来の専門は膠原病疾患ですが、膠原病の患者さんは肺疾患合併が多いことから呼吸器内科とは切っても切り離せない関係にあり、呼吸器内科疾患の診療も担当しております。

本日は一般にあまり知られていない“膠原病疾患”について概略をお伝えさせていただきます。

“膠原”とはいわゆる“コラーゲン”のことを指し、あくまで概念なのでどの病気を指すか実は厳密には断言できません。私たち膠原病内科医は一般的には“慢性の全身性自己炎症性疾患”を自らの専門と捉えておりまして、患者さんには“本来外敵に向かうべき自分の免疫が誤って自分自身に向けてしまう原因不明の病気”とよくご説明をいたします。

いわゆる難病の一種であり、あまり聞き慣れない病気が多いかと思いますが、代表的なものには全身性エリテマトーデス (SLE)、シェーグレン症候群、皮膚筋炎・多発性筋炎、全身性強皮症、ANCA 関連血管炎、ベーチェット病などが挙げられます。一方で、関節リウマチも“慢性の全身性自己炎症性疾患”に該当するため膠原病の一種と捉えることもあります。

2021年3月8日記